

10.89

# 泉南走ろう会

連絡先 泉南スポーツ社  
0724(83)4653

〇〇平和であること

会長 透健三

激動の昭和終わる。昭和の時代は大変でした。私は戦前、戦中、戦後、昭和とともに育ち、昭和ともいふまで、六十二年と有る、貴重な経験を得ました。いま、つくづく平和であることが大事かと思ひます。私は長崎市長でないから、天皇の戦争責任について論じるつもりはないが、現代の世の中は戦争は犯罪、戦争を指導した人、指導された人、無理にやらされた人、戦争に参加した人、すべてが、悪とされておられますが、戦争が確かに悪い、しかし天皇のためには、またさらば祖国を救われと戦争に参加し、そして戦死した人、この人達を忘れてはならない。この人達を思うとき、平和とは感無量です。昭和二十年八月十五日私は本土決戦に備えて、土浦海運航空隊におりました。その日の午前、土浦の上空では空中戦が行われており、打ち落とされるのは日本の飛行機ばかり、私は乗る飛行機がないから、低空で来る敵機に機銃で応戦「対空戦」。そのうち午後になると、敵機が、バム、と来なくなり、上官より、指令が降り、兵舎に集まるようにと空襲で焼け落ちた兵舎に集合してあります。終戦の詔勅(ようちやく)がありました。その時、私は遠く、ぼんやりとし、これでは今まで戦

戦友達は大死ではないか、昨日まで特別攻撃隊として出陣した友、自分のものうち出撃だと覚悟を合せておりました。そのうち「天皇の指揮する海運航空隊は降服しない」と指令があり、だがこの時はもう指令「伝達」通知も判然としなかった。しかし、私達はそれなうばと戦いに備えておりました。若し上官が(海兵隊が)帰ると思われれば、君達は、なに興奮しているのか、なに騒いでいるのか、戦争が終了のだ、君達の気持ちわかるが、早く故郷に帰れ、戦後の復興は君達の手です。のびのびと、まだ(じんじんと)とささやき、そこでも、私達は観念する。そして故郷に帰る(その)時の指揮官、特攻隊長、大西瀧治郎中将、昭和二十年八月六日自決する国破れ、山河あり、衣食住なく、苦難の道が続くのであります。戦後我が国の道は、スプリングでした。古橋玄之進の水泳、一松監督のバレーボール、そして東京オリンピックで、昨年の韓国、オリンピックを見るとき、参加はオリンピック史上最多国とのこと、私は感うたです。私は思う。皆さんもテレビで見たことか、昭和二十年十月の雨の降りしきる、明治神宮での学徒動員七万人、そのうちの子は戦死、戦死、戦死と聞く。この若者達は、オリピック選手達と同じ年代、また沖縄では、軍人、果敢に二十万人、(子)王まで戦って戦死と聞。今次大戦で世界の国々、何十万人、何百万もの人が死にました。このことを思う時、激の昭和でした。日本は今や経済大国となり、世界で何を

なすへきか「平和であること」平成元年に思ふ。帰者、とんでもない泉南走ろう会の機関紙となり、下が、昭和も終わるね、私は何時も走りながら平和とほい、ことばなめと思ひ、走っております。

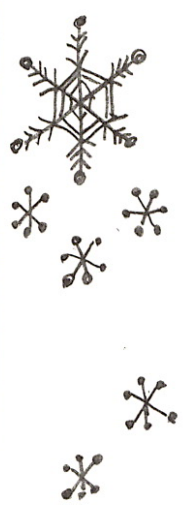


## フルマラソン完走をめぐって

「三十歳までに結婚する」「三十歳までにフルマラソンを完走する」と、半分冗談の様に周囲に公言してきたが、あと一年を切ってしまう。前者はなかなかむづかしいと思うので、フルマラソンに頑張りたにと思ふ。今日此の頃である。

長い距離を走ることには前からの興味を持っていた。十年くらい前の二月、ちょうど私は浪人中で京都へ出向いていた。五月間のうち、四日間がテストで、確がある日に街の中心を歩いた。今はもうない京都マラソンに出くわした。新聞か雑誌かで読んだのだが、高石ともやが出場するのは、この大会だったはずだ、と思ひながら、何となく見ていると、十数分後に見つけることができた。思わず、「がんばれ」と声をかけ、俺もフルマラソンを走りたいなあ、と思つたのが、マラソンを走りたい、と思つた最初だった。

しかし、大学時代は走ることなどほとんどなく、不健康な生活をおくりました。  
 ひまなごころ走りだしたのは去年の夏。以後、次の年の春(すなわち今年)の篠山をめぐらして戻ってきた。八月末に十km、十月にあいの土山でハーフを完走、また十月と十二月は月間走行距離が二百kmを越え、これなら順調だ、と思いつながら新年を迎えた。しかし、ここで思いもよらぬトラブルが発生。一月十五日の堺・大泉緑地の新春マラソン(二十km、ここでM先生と出会う)を完走したものの、右ヒザがどうも重い。以後もその重さがぬけず、病院へ行ってみたところ、もらった言葉が「ふん楊枝(びんやなぎ)をしよう。少し休んでみたほうが...」少し休んだが、あまり深く考えず、その後も走り休んだりの生活がいけなかったのかも。いづれでも痛みがとれず、思いついて三月六月は一切走らないことにした。これがよかったのか、夏にはまた走り出すことができ、先日の川西では自己ベストを出すことができた。  
 フルマラソンを走ったことのない私にとって、やはり完走は夢である。前回は断念せざるを得なかった篠山で、是非初のフルマラソン完走を果たして、おいしいビールを飲みたいと思う。



昭和六十三年年度会計報告について

収入	支出
繰越金 1,342.0	御祝 10,000
公費 2,449.12	御儀参加費 4,000
雑収入 庫外参加打 1,000	駐車代 4,000
紅十字会 1,000	郵便切手代 2,211.0
忘年会残額 4,000	コピー代 2,211.0
計 47,280円	計 40,110円
	残 7,170円
	残金は翌年へ繰越す

以上の通り報告いたします。会費の主な用途は、機関紙の発行の郵便切手代、コピー代であり、会費の滞りには、早く会費の納入をお願いします。

お知らせ

一、例会日について  
 今まで例会日は毎月オ一、オ三日曜日に行ってまいりましたが、本年(平成元年)よりオ二、オ四日曜日に行うこととなり、手配のため、お間違えのないよう、例会日には参加して下さい。  
 平成元年一月の例会日は  
 一、一月二十三日 午前九時 新家公民館  
 二、コース 新家一岡田海岸一樽井海岸一泉南

二、会費の納入について

平成元年一月より十月まで月二〇〇円、今年も増額いたします。未とう会費不足は来年度に繰り越す。年費二〇〇円を一月例会日か阪南駅伝参加のあり納入をお願いします。早く会費を納めて、心置きなく走りましょう。

※才三十九回阪南駅伝(二月十二日)について

今年も恒例の阪南駅伝に参加する事になりました。チーム名は「クラブ名」では参加できませんので、今年には「鉄工所」所属として参加します。(参加者)

- Aチーム Bチーム
- 監督 遠
- 一区 川本 465 km 栗野原
  - 二区 仲田 27 km 吉野谷
  - 三区 西田 27 km 井上
  - 四区 山瀬 27 km 細井
  - 五区 牧野 27 km 北島
  - 六区 佐野 27 km 日裏
  - 補欠 石橋 梶本
  - 高見 遠
- 受け付け 八時半から九時
- 開会式 九時十分から三十分
- (※) 決寺公園まで、細井氏・石橋氏、車で参上致します。
- 従って、新家公民館午前七時三十分集合、出発します。

